



友人の晋山を祝し併て自己の
希望を遂ぐ書す

高ニ

伊藤海岡

時下礮火親和の候尊元會々御健
 下すす 五至す無事御幸はから御
 安心を乞ふ承はれ不元はは今因法
 縁起發の御轉旋と權信後諸氏の衆
 請に依り某寺の燃燈所承經せらる
 ・オと、わり去り某の因身是御晋山せられたる御祝
 におまます 元の新晋山を因縁上て見せ時め生の嬉し
 さは此へよもの、ねの程下さつたと同時に元とりの通知
 の速きを恨だ位であつた昨日道理解の人であつた元が
 今日より賢行の人となり天来の才能と克資せる學識と

相傳ち一の法増と曰つて清はの光明を放つと思はや誰
人より双手を舉げて喜ぶべからう況や七星露の長き間起
臥を全うし暮るに過りば善は悲ひに若衆を僕にした
の生何ぞ喜ばざらんや 兄かき業より實行の人であら
まとは生の信じて疑はぬ所である 兄か何時をヤの新
年合に敢て糸門の現状を慨し一般緇衆の反省を促す下
小題の下は得意の無礙年を振はれおはとは今尚ほ生の
記憶に残つて居る其時生は同僚の業を両手におめてい
やくはの程拍手し其大要は就か日蓮宗は西海宗教の
統一世界人類の救済を小最大の抱負と主義とせ以て生
れ出たのホも我宗徒は系祖上人の奮闘難戦の御生涯は
依つて慕きあけられざる者で王きて居りぬぬは宗者の
為に献身しなせぬばならぬおはは當然であらう然るに

先師先輩の苦心に感れらるる感懐用も、ずかき門は、此の如き
手取用らざるの在來の且、借徒を、得たの、白紙の、手取に、
情事、に、つ、み、濃、張、して、後、に、生、計、難、も、の、不、得、不、得、如、色、に、真
に、痛、感、も、の、伴、敵、も、も、言、は、う、様、な、も、人、の、以、と、言、は、ぬ、が、な
ら、ぬ、鉄、に、社、會、の、多、く、が、宗、教、を、用、し、る、無、理、法、を、稱、し、爲
る、如、き、は、次、し、て、無、理、で、な、い、と、言、ふ、と、一、歩、を、進、め、る、所、金
や、紫、金、の、賣、れ、行、き、盛、な、る、所、は、原、因、に、爲、る、是、步、で、な、ら、ず、と
ま、ひ、更、に、轉、じ、て、彼、借、伴、も、主、義、も、無、き、宗、教、を、用、し、る、所、の、男
等、者、な、り、現、花、節、語、り、な、り、と、嗚、呼、も、無、理、法、を、稱、す、る、に、對、て、曰
く、今、目、道、な、し、來、り、ぬ、を、還、來、の、罪、科、を、告、む、る、も、先、づ
脚、五、に、相、識、の、相、識、悔、し、伴、組、の、御、心、に、奉、お、採、に、心、懸、え、事
を、原、門、の、綱、素、に、促、す、と、同、時、に、吾、等、者、借、伴、は、火、の、如、き、放
に、努、め、盡、し、堂、したる、氣、遣、に、向、は、し、む、と、様、異、傳、同、に、白

行化他の努力次第のが猶著茂心の並懸ぶるゝと稱く
お如き鳴衆の裡に降壇せられられたるは今も此の日に死
つてゐる 兄が修行の人なる事疑はれぬは此の火理
恐お枝の山秀で水陸き、・後地は着る實懸されおるて
願懸せる御門の賣僧兵をじて猛獅の前におる小羊の如
くなさん賄の道き將來にあるを信ずると同賄は類は極
端なるお業おらんも余に託せて善を取らん然は必ず居
のである宗門の爲にはいと信ぜざる所である希とは兄と
寺檀の關係と習慣とを考えて得意の敬職時を臨み機に
應じて寺門の爲出で、も國政宗門の爲跡尽おすべし此戒
宗門として宗門の抱負と主爲との實懸を道からしめん
こととを衆の生の希望を申べて善おの祝辭に成下しのみ
終りに臨んで寺門の隆盛と兄の健康を祈る